2018年5月号

日土
二宮　仁美（ひとみ）さんの巻
長女　伊邑（いさと）ちゃん（3歳）

「前代未聞の産声ですよ。」
それが、伊邑が生まれて先生に初めて言われた言葉。新しい命の並ならないパワーを感じました。帝王切開の術後、高熱にうなされながらも、これからの伊邑との未来に胸がワクワクしたのを今でも覚えています。
その後は大変なことの連続。おっぱいは飲まないし、夜も泣きわめいて寝ない。子供がすやすや寝て、母親は温かい目でそれを見つめるという理想の子育て像は脆くも崩れていきました。睡眠不足と疲労で涙が出ることもありました。ですが、主人と家族の協力でなんとか乗り越えることができました。そばにいるだけで心強かったです。また、おむつの前後を逆にしていたり、ほ乳瓶のゴムの付け方を間違って飲ませていたり、おっちょこちょいな母親でしたが、すくすく育ってくれてありがとう。
伊邑ももう3歳。今では口が達者で「何が？」「じゃなくて？」「どうして？」禅問答のような会話。とても頭を使いますが楽しんでいます。好きなことは歌と踊り。ステップ台をステージにしてお気に入りの歌を歌ってくれます。また、突然「ママ好きよ～。」と甘えてくれるのでたまらなく愛しくなりますね。ずっとそばにいてほしくなります。
将来は人の意見に左右されず、自分らしい意見を持っていられる子になってほしいです。
存在しているだけで価値がある。失敗を恐れず自信を持っていろんなことにチャレンジする。親としてそのための協力は惜しみなくしたいと思います。

私が八幡浜市に嫁いで長い月日がたちました。はじめは土地に馴染めなくて寂しい思いをしていました。しかし、子育てをしていて八幡浜に来て良かったと、心から思えるようになりました。まわりの人柄の良さ、子育て支援の充実。たくさんの素敵な仲間とも出会えました。これからもいろんなつながりを大切にして、子育てを楽しんでいきたいと思います。